

## 学校通信



## 子安だより

発行日：令和8年 5月29日

発行：横浜市立子安小学校

〒221-0013 横浜市神奈川区新子安1-36-1

TEL 045-421-0993



自分が好き 友だちが好き 学校が好き まちが好き

## 点が広がると、世界が広がる

校長 山本 加奈代

縦割り活動が3年目を迎えました。

この取組はスケールメリットを活かし、学年を越えた子ども同士のかかわりを通して、互いを理解し合う関係をつくってほしいという願いから始まりました。1年生から6年生までで構成される縦割り班の中でも、1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生は「ペア学年」として特に深い関係を築いています。

この3年間で、縦割り活動のよさが確かな形となって表れてきました。給食を一緒に食べたり、中休みに遊んだりすることで、様々な学年の友達が自然と生まれています。校外で見かけたときにも声を掛け合う姿が見られ、子どもたちの世界が広がっていることを感じます。ペア学年では、上の学年が下の学年をそっと気遣う姿も増え、かかわりを通して相手を思いやる気持ちが育っています。

先日の縦割り活動の顔合わせでは、6年生が自己紹介やゲームを進めました。6年生にとっては縦割り班リーダーとしての初めての活動です。事前に、担当の先生方と打ち合わせを行い、どんな言葉を掛けたらみんなが楽しめるか、どうしたらスムーズに進められるかを想像しアドバイスを受け入れながら準備をしていました。1年生から5年生をまとめることは簡単ではありませんが、相手の気持ちを思い浮かべながら計画する姿に、最高学年としての自覚を感じました。

その6年生の教室を回っていると、ちょうど国語の授業が始まるころでした。教材は、学校からの帰り道の出来事を、「二人の視点」で描いた物語文です。同じ出来事であっても、語り手が変わると物事の捉え方や見え方が異なってくることが描かれています。6年生は、人物の様子や会話、気持ちを表す文章や言葉に着目し、根拠となる表現を見つけ、そこから想像して自分の考えを表現しようとしていました。かなり高度な力ですが、この力は、6年生になって突然身に付くものではなく、1年生から5年生までの積み重ねがあるからこそ発揮できる力です。

このように、国語の学習では、実体験だけでなく、文章を読むことで、他者の視点に触れる経験を重ねます。そこから感じたり想像したりすることで、自分とは異なる考え方に気づき、友達と意見を伝え合う中で新たな考えに出会い、自分の世界を広げているのです。

縦割り活動で育つ「相手を思う気持ち」と、国語の学びで育つ「相手の視点に着目し想像する力」。この二つは、子どもたちがよりよい人間関係を築き、互いに理解し合うための土台になっています。

縦割り活動の実践と、国語の学習で培う想像する力が重なり合い、子どもたちの世界はこれからも豊かに広がっていくでしょう。一つひとつの経験や学びを大切に、子どもたちの心をじっくりと育てていきます。